

令和7年度 第1回 亀岡市こどもの貧困の解消に向けた対策会議
議事録

□ 日 時 令和7年7月30日（水） 13時30分～15時30分

□ 場 所 亀岡市役所 別館3階会議室

□ 出欠状況

出席委員 金田 委員、鈴木 委員、吉田 委員、川口 委員、石田 委員、
原田 委員

欠席委員 堀橋 委員、山内 委員、杜 委員

事務局 こども未来部 9名（部長、子育て支援課、こども家庭課、保育課）
健康福祉部 3名（部長、地域福祉課、障がい福祉課）
教 育 部 3名（部長、学校教育課、社会教育課）
オブザーバー 2名（佐々木副市長、
(株)サーベイリサーチセンター大阪事務所）

1. 開会

- ・事務局より、資料の確認
- ・事務局より、新規委員（4名交代）の報告

2. 委員紹介

- ・委員自己紹介
- ・事務局より、欠席委員（堀橋委員、山内委員、杜委員）の報告
- ・事務局職員自己紹介
- ・事務局より、傍聴者（0名）、会議録作成・公開の報告

3. 議題

（1）「亀岡市子どもの貧困対策推進プラン」進捗状況について

- ・事務局より、資料1について説明

（2）「子どもの生活状況調査」の結果報告について

- ・株式会社サーベイリサーチセンターより、資料2-1、2-2について説明
（質疑応答）

副会長： 現プランの進捗状況が確認できた。昨年の会議でご意見いただいたとおり、次期プランのKPIはより適切にアウトカム指標を定めていければと思う。

また、子どもの生活実態調査結果からは、子どもの貧困をとりまく実態や数字がみえた。亀岡市内の子ども達のこれからの生活に向けた対策への取組を策定していくことになる。保育園などにおける保護者の現状等をお聞きたい。

委員： 保育園を利用している子ども達の保護者は就労しているので、早くて朝7時から登園し、夜7時まで保育時間がある。両親ともに正社員・常勤で就労している家庭が多い。子どもの姿をみて、その家庭が貧困であることはわかりにくいところがあるが、両親の子育ての悩み、お母さんの悩みの相談は多い。保護者に寄り添う相談の時間は設けるようにしている。

副会長： 子どものこととはいえ、保護者の悩みが子どもの成長に反映している。保育所や園がお母さん達の子育ての寄り添いの場になっている様子が感じられた。続いて、小学校6年間の中で子どもの成長が著しく感じられると思うが、小学校での現状をお聞きしたい。

委員： アンケート結果を聞いて、教職員同士でよく話していることと一致する内容が多かったように感じた。家庭学習を家に持ち帰っても、フォローがなかなかできないし、お願いしても継続できない子も多い。その裏の環境や背景をみていくと、仕事で忙しいことがある。本校の児童306人中、120人ほどが放課後児童クラブに入っており、学校で18時30分頃まで過ごす子もいる。帰宅後も両親が忙しく、そこから晩御飯や入浴になるので、自ずと就寝時間も遅くなる。そのため、次の日に起きることができなくて、遅刻する子もいる。悪循環になっていて、そのあたりの改善を進めることが難しいという話をよくしている。学校でも何か家庭のフォローができないか考えているが、そこは難しく、福祉に相談するなどさせていただいている。また、子育てに悩んでいる方は、横とのつながりがあまりないように思う。気軽に相談することができず、子どもを叱ってしまうという悩みも聞く。学校にはスクールカウンセラーがいるので、そちらにつなげている。改善したいと考えてはいるが、なかなか難しい。

副会長： 当たり前の様子なのに、なかなか改善されないという先生達の大変さがよく感じられた。中学校では学習サポート等、将来的なことに向けた取組がより具体的になっていくと思うが、その様子についてお聞きしたい。

委員： 貧困と不登校生徒の関連性が少なからずあると思っている。生活が安定せず、親御さんが家庭にいない、子どもの養育・教育に関心がないために、子ども自身もなかなか学校に足が向かない。学校にさえ来れば、つながりもあるし、様子も伺えるし、食事も最悪なれば学校で何とか用意できるし手立てが打てるが、基本的に親御さんにつながらない。安否確認のレベルで家庭訪問に行っても、なかなか会えない家庭もある。家庭の状況をみた時に、貧困と密接な関係があると思う。学校に来にくいことも、家庭環境、特に貧困については関係性が濃いと感じる。

それから、中学校は、卒業後に社会に出ていく一歩手前のところがあるので、進路保障が絶対条件になる。何らかの形で進路を保障することに注力するところであるが、なかなかつながらない、学校に来ない、様子が分からないという状況があり、結局、卒業ギリギリまで進路が確定しないことが現状としてある。何とか接点さえ持てればというところが、中学校では一番大きな課題と感じる。学習保障に関しても地域未来塾等があるが、時間数ではなく内容の充実が必要なことは、おっしゃった通りだと思う。ただ、これも人

材確保が難しいことと、その前段で学校になかなか来ないことが大きな課題だと思う。

副会長： 子ども達の現状をお聞きした。ここに子ども達自身の意見が入れば、我々が取り組むべきことの深さを知ることができるのではないかと思う。

委員： 私が子どもの頃は、亀岡市内の2校しか高校の選択肢がなかった状況であった。選択肢がないといえませんが、楽といえ楽だった。今は選択肢が広がっている一方で、ものすごく集中している。私は京都市内で子育てしているが、中学生の子ども達は、市内人気校に進学したいということしか言わない。この会議は、こどもの貧困解消を謳っているが、調査結果からは子ども達のしんどさが伺え見えたと思う。教育費で負担が大きいと感じているもの、学用品費では生活困窮層とのことだったが、学校外の教育費では非生活困窮層の割合が高い。塾の費用は本当に高い。でも、そういうところに通って個人が努力して、個人が何とかその目標を達成しなければならないプレッシャーに、子ども達が追い立てられているのではないかと感じる。そうすると、選択肢が増えるからである。学校にも行かないといけないし、また、塾に行けば親や学校の先生以外にも話を聞いてくれる大人がいる。学校外でも教育が受けられる子ども達は、色々な世界が広がっていく。そうでない貧困層の子ども達は、塾にも行けないかもしれないし、塾に行かせるにもお弁当等の手間が必要で、なかなかケアが行き届かないところもあると思う。塾の先生に色々話を聞くと、中学受験をする子ども達は小学4・5年生くらいから塾に行く。高校受験も、小学6年生か中学1年生頃から塾に行かせることが京都市内ではスタンダードになってきている。学校では、どの子も到達できるようなテストを作っているはずだが、平均点にすごく差が出てしまうのは、京都市内でも言われている。そこでついていけないと、自分はダメだとなってしまうのではないか。

副会長： ステージ毎に課題を挙げていただいた。各ステージをつなぐことも大切となる。

委員： 先ほど、「学校に来てくれさえすれば、つながりさえ持つことができれば」とおっしゃっていたが、中学生になってからの3年間で、つながりを持つために先生方が頑張るのは相当大変だと思う。いきなり中学3年生の思春期の子ども達と関係をとろうと思っても、なかなか難しい。恐らく、中学生くらいになると子どもの養育に関心が無いというか、どうしたら良いかわからなくて、親も息切れしていると思う。今の話を聞いていると、小学生でも親は息切れ状態だと思う。そう思うと、子どもの特性や貧困だけでなく、忙しい子も余暇が楽しめることが大事になってくるし、それをもっと早い段階から相談しても良いと思えるような関わり方ができればと思いながら聞いていた。一方で、「支援が必要な時に、必要な支援に適切につなげること」がこの会議の目的かと言うと、恐らくそうではなくて、発達の子の特性や発達上の課題をクリアしながら自立していく、自分で人生を選んでいくためには、支援につながった先に自分で自分の人生を歩んでいけるところに、どう導いていくのが良いかを考えていた。それは恐らく、小中学校の教育で担うのではなく、

母子保健等の入り口のつながりから、保育や幼稚園等の就学前にいかに関わっていけるかが、相談援助を求める行動等につながると思う。それが次の世代の子ども達が相談しても良いと思えるところにつながるのではないか。

副会長： 子育ては早い段階の連携やつながりが必要で、言葉が独り歩きしているが切れ目のない支援の重要性を皆さんで確認できたと思う。

(3) (仮称) 第2期亀岡市子どもの貧困対策推進プラン（計画骨子案）について

・事務局より、資料3について説明

(質疑応答)

委員： 2ページの「子どもの貧困の解消に向けた“目指す姿”」にある3つの視点のうち、「子どもの視点」に「生まれ育った家庭の事情等に左右されず、夢と希望を持って成長していけるまち」とある。夢と希望はだいたい誰もが持っていると思うが、「それを実現することに向けて」が難しいのだと思う。「どうせ自分は…」と諦めずに、「～夢と希望に向けて成長できる～」などの表現の方が良いのではないか。

もう一点、「地域の視点」は地域の人が主語だと思うが、「地域や社会とつながり」を持つのは一体誰なのかと感じた。「子どもが地域や社会と」と入れた方が、違和感なく読めると思う。些細なことに引っかかって申し訳ないが、ご検討願いたい。

副会長： 些細なことが大事だと思う。他に言葉の違和感や不明瞭なこと等があればご意見願いたい。

委員： 施策体系については示された（案）の内容でよいと考えるが、保護者目線に立って、子どものライフステージ・発達段階に応じて事業整理したものも掲載することがわかりやすく望ましい。

委員： 市民の方が次期の貧困対策プランを見たときに、各事業や施策について、相談する意思を持った該当者を取りこぼさないよう、適切な窓口や担当課を明記し、そこから具体的な事業や施策について可能な限り記載し、つないでいくことができればよいのでは。ぜひ検討いただきたい。

副会長： 皆さんからいただいた貴重なご意見を十分踏まえて、計画骨子案を整理させていただく。

(4) 対策会議スケジュールについて

・事務局より、資料4について説明

(質疑なし)

(5) その他

・事務局から、会議録の公開について説明

4. 開会